

8 幼児教育から小学校低学年への接続を図る

👉 こんな実践

子供たちが園で経験した遊びを大切に、水を使った砂遊びを存分に楽しむ中で子供たちが気づきを生み出していった事例。

実践学校 I 小学校

実践学年 1 学年

実施時期 6 月

単元名 「水をつかって たのしくあそぼう」

学習指導要領との関連：内容項目（6）

見方・考え方：お砂場ランドに向けて自分の思いや願いを実現しようとする事。

育成を目指す資質・能力

| | |
|-----------------|---|
| 知識及び技能の基礎 | ・身近な自然を利用した遊びを繰り返しながら、季節の変化や自然の特徴に気付いている。 |
| 思考力、判断力、表現力等の基礎 | ・身近な自然のものを利用した遊びや、お砂場ランド作りの過程で、もっと工夫したりさらに楽しくしたりしながら遊んでいる。 |
| 学びに向かう力、人間性等 | ・自分の思いや願いを実現するためにお砂場ランド作りに対し働きかけ、試行錯誤していく中で、自分のよさや可能性に気付いている。 |

(1) 思いや願いの高まり

○ 学校生活に慣れてきた子供たち。園でやったことのある砂遊びを生活科の時間に行いました。Aくんは最初、砂に直接水をかけていましたが、何度か遊んでいくうちに、「砂山の上の方から水路みたいに水を流したい」と半分にした竹の棒を山の斜面に置いて水を流していきました。



○ 竹の棒から次々に水が流れ込んでくるので池の土手の砂が崩れてしまいます。そこでBくんは、池の底にたまった砂をかき出して土手を盛り上げて固めました。「もっと早くかき出さないと土手が崩れてしまう」と、砂を素早くかき出していると近くにいた友だちが集まってきて、一緒に土手作りをしていました。



🔦 ここがポイント!

・子供たちの興味や関心を大切に、対象と繰り返し関わることができるようにすることで、子供たちは自分の思いや願いが高まり、それを実現しようとしていきます。

(2) 気付きの質の高まり

- じょうろの水を横から流すと、竹から水がこぼれてしまうことを見つけたAくん。
Aくんは、【じょうろと竹の向きから、竹への水の流し方を比べる】という見方・考え方を生かし、水がこぼれないように試行錯誤していきました。その後Aくんは、じょうろの先を竹と同じ方向にして水を流せば、水がこぼれないことに気付き、水を流すことを楽しんでいました。



ここがポイント！

- ・子供たちの姿を大切にされた環境を構成したり、砂遊びを存分にできる時間を確保したりして、身近な生活に関わる「見方・考え方」を生かした学習活動が充実していくことで、気付きの質が高まっていきます。

まとめ

- ・自分の思いや願いを実現していく過程において、一人一人の子供が試行錯誤する中で、自分との関わりで対象を捉えていくことが生活科の特質です。遊び込む中で遊び自体の面白さや不思議さを感じたり、気付きの質を高めたりすることが大切です。
- ・園での経験を生かし、子供たちが自分の思いや願いに向けた活動をしていく中で、対象への働きかけや対象からの働き返しという双方向性のある活動が、他者との関わりを生みます。